

平成 30 年度 第 1 回福生市子ども・子育て審議会会議録

日時：平成 30 年 7 月 27 日(金)

午後 2 時から

場所：福生市役所第 1 棟 4 階庁議室

1 開会

【浅田部長】本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本審議会の前半部分を進行させていただきます。福生市子ども家庭部長の浅田でございます。よろしく申し上げます。

開会の前に平成 30 年度 4 月 1 日付で本審議会事務局の子ども育成課に人事異動がございましたので、その御報告と職員の紹介をさせていただきます。子ども育成課長の中島でございます。子ども育成課保育係課長補佐の上杉でございます。子ども育成係主事の池田でございます。同じく、子ども育成係主事の小作でございます。

続きまして、本日の出席職員を紹介させていただきます。

健康課長の瀬谷でございます。子ども家庭支援課長の高山でございます。子ども家庭支援センター係長の石川でございます。事務局の子ども育成課保育係担当主査の稲生でございます。事務局の子育て支援係課長補佐の永澤でございます。事務局の子ども育成係主事の杉浦でございます。

また、今年度の福生市子ども・子育て支援事業計画策定基礎調査の委託事業者であります、株式会社 めいほう 名豊より、いといがわ 糸魚川営業技術部長にご出席いただいております。

なお、ご質問の内容によりましては、事業を担当する部署あるいは委託業者より説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、平成 30 年度第 1 回福生市子ども・子育て審議会を開会いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿いまして進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

2 委嘱状交付

【浅田部長】それでは、次に委嘱状の交付を行います。資料 2 (2) の委員名簿ですが、こちらは申し訳ありませんが、本日差し替え資料として配布してあります方をご覧ください。本審議会より 2 名の方が新たに委員に就任されます。

保育関係者代表として、委員を委嘱しておりました古谷 光好（ふるや みつよし）様に代わり、新たに福生本町保育園園長の今井敬子（いまい けいこ）様、次に関係行政機関の職員として、立川児童相談所 児童福祉係長 荒岡 孝子（あらおか たかこ）様に代わり、奥村 理加（おくむら りか）様に委員をお願いすることになりました。なお、奥村委員におかれましては本日欠席のご連絡をいただいております。交代後の任期につきましては、福生市子ども・子育て審議会条例第 4 条第 2 項の規定により、前任者の後任期間となりますことから、本日 7 月 27 日から平成 31 年 8 月 20 日までとなりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、加藤市長が他の公務のため、福島副市長より委嘱状の交付を行います。お名前をお呼びいたしますので、自席にてご起立をお願いいたします。

今井敬子（いまい けいこ）様。

【副市長】委嘱状 今井敬子（いまい けいこ）様。

福生市子ども・子育て審議会委員に委嘱します。平成30年7月27日福生市長加藤育男代読。

【浅田部長】ここで新たに委員になられました、今井様より、自己紹介を兼ねてひとこと、ご挨拶を頂戴したいと存じます。今井委員、お願いいたします。

【今井委員】ご紹介いただきました、福生本町保育園の今井と申します。今年4月から園長になったばかりで、未熟者でございます。ここで子ども・子育て審議会に出席させていただきまして、福生の取り組み、東京都の取り組みをしっかりと身に付けて、後継できるようにしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

3 諮問

【浅田部長】ありがとうございます。続きまして、福島副市長より、福生市子ども・子育て支援事業計画の策定について諮問をさせていただきます。

【副市長】第二期となります、福生市子ども・子育て支援事業計画について諮問いたします。よろしくお願いいたします。

【佐々会長】よろしくお願いいたします。

4 副市長あいさつ

【浅田部長】それでは、福島副市長よりご挨拶をさせていただきます。

【副市長】みなさん、改めましてこんにちは。本日は暑い中、市役所の方までお越しいただき、ありがとうございます。今井委員に置かれましては、どうぞよろしくお願いいたします。ただいま佐々会長に諮問書をお渡しさせていただきました。第二期となります子ども・子育て支援事業計画の策定について、審議いただくわけでございますけれども、皆様もご存知のとおりこの計画の基になりましたのは平成25年のいわゆる子ども・子育て関連施策ですが、これにより平成27年4月から新たな子ども子育て支援の制度が始まりました。福生市におきましても平成27年4月からこの計画を立てて進んでいております。これにつきましては、大きく3つの柱がございます。1点目は幼児期の学校教育の充実・総合的な提供、2点目は待機児童の解消、3点目は子育て支援の充実、こちらを大きな柱として新たな制度としてやっていきたいと思います。これは、少子化の進展、核家族化、地域の繋がり希薄さが背景にあるわけでございます。私たちの子どもの頃とは大分環境が変わってまいりまして、時代を担う子ども達の健やかな育ち、子育ての支援のためには社会全体で取り組まなければいけないといったところから始まったものでございます。ここにいらっしゃる委員の皆様、そして関係者のご協力とご尽力におきまして、おかげさまで福生市では3年間保育所と学童クラブの待機児童はゼロでございます。また日経新聞が開催しております、子育て応援サイトの日経DUALがございしますが、共働き家庭子育てしやすい街ランキング3年間で2位、2位、3位という高い評価を受けております。これも皆様のご尽力のおかげと感謝しているところでございます。色々な施策を打って出たわけございまして、高い評価をいただきましたけれども、まだまだ満足することなく今後とも努力してまいりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。ここで第一期の支援事業計画が平成31年度をもって終了いたします。ここで元号が改まりますので、平成32年ではなく、2021年を基点とする5年間の第二期の計画を策定するわけですが、ご意見をたくさんいただきまして、より良い第二期の計画となるようご支援をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

5 会長あいさつ

【浅田部長】ありがとうございました。続きまして、佐々会長よりごあいさつをお願いいたします。

【佐々会長】副市長からも第二期の子育て支援計画についても含めて諮問いただいたということでございます。

一期が平成27年から始まって平成29年度を終えて中間期ということで、中間期の見直しを含めてその先を策定するというようになっております。ですから、一期の5年計画を踏まえながら、同時進行をしていかなければいけません。その間に国の制度や東京都の考え方が出てきて、それに対する福生の考えが出てくるかと思えます。この地域において「子育てするなら福生」ということを皆様とともに検討したものを市町村の方にもお出しして、平成27年から今年4年目になるわけです。その間の推移をみながら、どういうことが課題だったのか、何が進展して何が残ったのかを当該課にご説明を受けながら、質問しながらやらせていただいたというのが現状としてあったと思います。今日の会議の中でも資料が配布されていて、今回の検討事項にもなるかと思えます。今抱えているものが何なのかを考えると、虐待などの痛ましい事件や、災害などでプールの壁が崩壊したことによって全国の各自治体で調査等を行いました。暑さ対策のプール指導をどうするかなどは個々の自治体に任されていて、過去に経験のないことをどんとぶつけられていて、その中で判断材料としてどう考えていくのか。命を大事にすることだと思いますが、その策が見つからないときはどうしたら良いか、そこに戻るとはこういうことだと福生の考え方をちゃんと持っているというのが大事なのだと改めて感じました。それほど大きな市ではなく、人口としても多くないですが、「子育てするなら福生」と全国的にも名を轟かせるだけの中身を持っているということはどういうことなのだろう。それを維持して住まう人たちにとって過ごしやすい、子育てしやすい、生活していることによって良いことが出てくるのは、こういうことが関係するのだと思います。多くの福生市の関係の方が努力したものが実った上で此処に来ているかと思えますので、これからも皆様方のご意見を出していただきながら、行政との関係での質問とやり取りで良いものが作り上げられたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【浅田部長】ありがとうございました。なお、副市長は他の公務のため、ここで退席させていただきます。

それでは事前に配布させていただいております資料、及び本日配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。以降、議事の進行、委員の皆様方の発言、事務局の説明など、すべて着座にて進行させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

既にお送りしている資料は

「資料1 平成29年度第2回子ども・子育て審議会会議録」

「資料2 (1) 福生市子ども・子育て審議会条例」

「資料2 (2) 委員名簿」こちらは差し替えとなります。

「資料3 福生市子ども・子育て支援事業計画検討委員会設置要領」

「資料4 (1) 平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況」一部差し替えとなります。

「資料4 (2) 平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画進捗状況結果について」

「資料4 (3) 平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画進捗状況及び評価」

「資料5 福生市の保育と教育における現状について」

「資料6 (1) 前回の未就学児保護者のアンケート調査項目の構成について」

「資料6 (2) 子ども・子育て施策に係る福生市のアンケート調査の実施について」

「資料6 (3) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査項目一覧 (未就学児)」

「資料6 (4) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査項目一覧 (小学生用)」

「資料6（5）子ども・子育て支援に関するアンケート調査・ご記入にあたって（未就学児）」
「資料6（6）子ども・子育て支援に関するアンケート調査・ご記入にあたって（小学生用）」
「資料7 子ども・子育て支援事業計画改定までのスケジュール」

また、本日の配布資料といたしまして、

「次第」

「資料4（1）平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況」 差替え2枚

「資料2（2）委員名簿」

「連絡票」

連絡票につきましては、のちほど詳しく説明いたします。

お手元にございますか。資料をお持ちでない方はお申し出ください。

【浅田部長】本日は、安藤委員、^{みなもと}源委員、神山委員、河村委員、篠田委員、奥村委員より欠席のご連絡を
いただいております。

加藤委員、宮崎委員につきましては、所要により遅れて御出席されるとの連絡をいただいております。
また、野口委員におかれましては、所要により、途中退席されるとの御報告を受けております。
14名中半数以上の出席となりますので、本審議会が成立することをご報告させていただきます。

それではこれより議事に入らせていただきます。議事進行につきましては、佐々会長にお願いいたします。

6 議題

(1) の平成29年度第2回子ども・子育て審議会会議録について

【佐々会長】それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、議題(1)の「平成29年度第2回子ども・子育て審議会会議録」について、事務局より説明
をお願いします。

【半谷係長】それでは、議題(1)の「平成29年度第3回子ども・子育て審議会会議録」につきまして、御
説明いたします。資料(1)をお願いいたします。こちらにつきましては、前回平成30年3月29日
に行われました「子ども・子育て審議会」の会議録になります。お名前を伏せ、ホームページで公開
いたします。よろしく申し上げます。私からは以上です。

【佐々会長】説明が終わりました。何かご意見・ご質問がございましたらご発言をお願いいたします。

続きまして、議題(2)「平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況結果について」を議題
といたします。事務局より説明をよろしく申し上げます。

(2) 平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況結果について

【中島課長】それでは、平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について説明させてい
たします。

資料4(2)「平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画進捗状況結果について」をお願いし
ます。福生市子ども・子育て支援事業計画は、平成27年度から平成31年度までの5年間の計画で
ございますが、本審議会での審議を経て策定された計画でございます。「子どもの育ちと子育ての喜びが
実感できるまち」を基本理念としまして、5つの目標を定め、今後の子育て支援策についての方向性
や目標を明らかにし、推進していくものでございます。

上段の表でございますが、子ども・子育て支援事業計画を推進していくための事業総数は再掲を含みまして、186事業でございます。

計画内の事業を基本目標別に見ますと、

目標1の【家庭・地域における子育ての支援】で77事業。

目標2の【母と子の健康を守り増進】で38事業。

目標3の【子どもの健やかな育ちを支援するまちづくり】で47事業。

目標4の【子育てと仕事を両立できるまちづくり】で7事業。

目標5の【子どもにやさしいまちづくり】で17事業でございます。

次に、平成29年度の各事業の進捗状況の評価でございますが、下の表をお願いします。個々の事業の目標に対する達成度でございますが、A評価 実施率90%以上は170事業で、全体の91.4%、B評価 実施率50~90%は16事業で全体の8.6%でございました。C評価及びD評価はございませんでした。

続きまして、資料4(3) 平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画進捗状況及び評価をお願いします。

こちらは計画の5つの基本目標について、評価別に事業数をまとめたものでございます。B評価は目標1と2が5事業、目標3は3事業、目標4は2事業、目標5は1事業となっております。

次に、資料4(1) 平成29年度福生市子ども・子育て支援事業計画事業目標をお願いします。こちらは子ども・子育て支援事業計画の各事業の進捗状況及び評価について、事業を担当する各課から報告を集計したものでございます。

各事業の評価の内容につきましては、180を超える数がございますことから、平成29年度の新規事業や今年度B評価となった事業、昨年度B評価からA評価となった事業、実施状況が拡充された事業等を中心に説明させていただきます。

1ページをお願いします。番号1「子ども家庭支援センター事業」でございますが、相談件数は12,653件で、前年度比2,825件、約29%の増となっております。また、ふれあいひろば利用者も増っており、実施状況が拡充されております。

次に13ページをお願いします。番号2「パパママクラス」は、参加人数について目標の450人に対し、382人だったため、B評価としております。

次に、番号6の「子育て教室」はすすくベビークラスや講演会の参加者が目標人数に届かなかったためB評価となっております。

次に14ページをお願いします。番号11「出産・子育て応援事業」でございますが、こちらは平成29年度の新規事業でございます。29年7月に開始した事業で、保健師等が福生市内すべての妊婦と面接を行い、心身や家庭の状況、子育て支援のニーズを把握し、必要に応じた支援を行うとともに、育児ギフトを贈呈するものでございます。113件の実施状況がありA評価となっております。

次に15ページをお願いします。番号4「妊婦歯科健康診査」でございますが、受診者の目標を50人以上としていたところ、41人の受診となり、実施率が82%だったためB評価としております。

次に19ページをお願いします。番号4「訪問型一時預かり事業」の実施。20ページをお願いします。番号11、「トワイライトステイ」の実施。22ページをお願いします。番号22「家庭福祉員制度(保育ママ)」の3事業につきましては、目標を課題の検討としておりますが、具体的な施策化に近づけておりませんのでB評価でございます。

25ページをお願いします。番号1「学校支援地域組織事業」でございますが、各小中学校の学校支

援コーディネーターの活動時間が拡充されたため、前年度のB評価からA評価となっております。

28 ページをお願いします。下の表の番号2「低年齢児保育の拡大」は、小規模保育事業の開設については検討までとなっておりますが、平成29年度は保育園の建替えや改修に伴い1、2歳児を定員増とできたことや、定期保育の弾力的な運用等によりまして、保育需要に対応ができましたので、B評価としております。

以上、平成29年度の事業について説明させていただきましたが、今後も子育て支援策の充実のため、更なる取組みを進めてまいりたいと考えております。引き続き、皆様のお力添えをお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

【佐々会長】ありがとうございました。お気づきのところ、ご説明いただいた以外のところで説明してほしい等ありましたらお願いします。

【佐々会長】すみません。評価のA B C Dについてですが、評価の数値は昨年と変わっていませんか。

【半谷係長】評価は昨年と同様で90%以上達成がA、50~90%達成がBとなっております。

【佐々会長】Bのところの幅が大変広いということですね。A評価が全体の91.4%で、前年度からBからAに転向したのものもあるので、前年度に比べて全体的に良くなっているという評価でよろしいですか。

【中島課長】数字だけで申しますと、昨年度はA評価が89.7%で今回が91.4%ですので、全体の中では増えている状況です。内訳としましてはAであったものがBになったり、BであったものがAになったりというものもございます。また、新規事業につきましては、新規ですがA評価ということにさせていただいております。内容としてはそれぞれ事業内容がございますので、Aを付けていても実績の数値がUPしているものもDOWNしているものもございますので、実際のところの詳細は事業の内容をご理解いただいております。

【佐々会長】昨年度A評価が今年度B評価になったものはどれですか。

【中島課長】詳細はのちほどご説明させていただきます。

【委員】9ページの17番「児童発達支援事業」ですが、目標に対して実績がかなり多くなっております。

適切な支援が必要な人が増えたのか、必要な人に対する支援の回数が増えて件数・給付金額が増えたのかをお伺いしたいです。

【中島課長】本日障害福祉課のものが出席しておりませんので、問合せをしたいと思いますが、予算の見込み状況よりも多い給付件数が結果として出ているようですが、実際どのような特徴があったかということで、今お調べさせていただきます。

【佐々会長】この場合の児童は何歳までのことでしょうか。なぜA評価なのかと思います。

【中島課長】給付に関する事業、特に障害に関するもの、児童のケア・医療費等といったものに関しては、必ずしも数字が大きければ望ましいといったものではない部分がございますので、種類によっては事業が適正に行われたということを評価の基準としているものもございます。ただ、今回ご指摘いただいたところにつきましては、見込み数をかなり上回る状況というところがございますので、確認させていただきます。

【佐々会長】障害福祉課の適正については、本人の要望に応じてケアの程度に応じて金額も変わってくるとは思います。数字だけだとわかりにくいので、どういうことが起こってどういう要望があって結果として給付が適正に行われてA評価だった、というのがわかるようにしていただけると、障害関係の人たちの実態が見えてくることもありますので、よろしくお願いいたします。

【佐々会長】他にありますか。

【委員】29ページの3番「通学路点検の実施」の目標のところに「危険箇所の改善に努めます」と記載しており、実施状況に「危険箇所について情報を共有した」と記載がありますが、危険箇所の改善には至

っていないのでしょうか。

また点検箇所 61 箇所のうちに危険箇所はあったのでしょうか。

【中島課長】危険箇所が何箇所あったのかと、危険箇所を共有して、改善できたのかどうかですね。

【佐々会長】情報の周知徹底、危険箇所にマークを付けることや、どう対応するのかがセットでないと、中々わからないところですね。関係する人たちのどこまで共有したのかによっても違ってきますよね。

【中島課長】通学路やスクールゾーンのチェックを行っているところですが、それぞれの学校ごとに数多くの要望箇所がございます。表でとりまとめをしております、それぞれどのような対応を行ったか、警察で対応、道路下水道課で対応、教育委員会で対応などそれぞれのチェックポイントによって、とりまとめができています。学校との間でも共有出来ており、チェックがあがっているところ全部改善できているかという、そうでもなく、現在対応中などの記載もございますので、表現ではわかりにくく申し訳ありません。市の独自のやり方でチェックしていると聞いております。共有の方法がどのようなところかをご確認されたいでしょうか。

【委員】というよりもプールの塀の事故もあったので、福生市では危険箇所の把握だけではなく改善に努めていて、実施の結果の数値が知りたいです。

【中島課長】教育委員会のほうに確認をさせていただきます。

【佐々会長】今質問にもありましたが、壁について、福生では現状はどうだったのでしょうか。

【中島課長】私も直接の担当部署ではないのですが、先日の事故を受けまして、国からチェックをするように通知が来ているところで、市の教育委員会としてはすぐに対応を行っているところです。いつ危険箇所があることを市民の皆様に公表するか、改修工事に入るか等の細かいところまでは把握が出来ていないところですが、全国的に国・東京都から緊急の対応を求める通知が出ていて、市としても対応していく所存です。

【委員】保護者はホームページをととても気にしているので、そういったことをホームページのところに即時出していたら市民は「福生市はすぐに動いてくれる」という信用に繋がると思います。

【委員】保育園としては市役所の方から事故があった3日後くらいに調査が入りましたので、福生市は迅速に動いてくださっているということで感謝しております。

【佐々会長】他の自治体などでは危険なところはすぐに撤去するなど、動きの早い自治体もありましたね。

【中島課長】すぐといっても費用のかかることですので、自治体によっては多少のずれはあるところがございます。子ども育成課については保育園・幼稚園、児童館などを管轄しておりますので、まだ通知は来ていませんでしたが、学校の方でそういった即時対応の動きがありましたので、確認させていただいて危険箇所の把握はさせていただきました。1箇所幼稚園の方で該当箇所がありました。そちらは今年度工事予定となっております、すでに工事が完了しております。現状こちらの部門では、危険箇所はないということです。小学校・中学校はそうではないようですが、私の方からは詳細はお話できないです。早い情報発信が欲しいとのご意見でよろしいでしょうか。

【委員】よろしくをお願いします。

【佐々会長】ホームページにアクセスした際に、今動いていることがわかる情報が欲しいという要望ですね。

【中島課長】教育委員会のほうにお伝えさせていただきます。

【佐々会長】他にございますか。

こちらから、17 ページの2番「教育相談室の臨床心理士による学校の巡回」ですが、実施状況に「病院等適切な機関につながったケースも出た」とのことですが、件数はどのくらいあったのかがわかるとありがたいです。大変努力をしておられるのがわかるのですが、ここだけではなく専門職の人たちのお力をいただいたケースとして、数があつた方が良いと思います。

10 ページの 23 番「保育所等訪問支援」について、A評価になっておりますが、回数はどのくらい訪問されたのでしょうか。それがわからないと専門職の方たちをご対応いただいているのが見えにくい状況となっております。

19 ページの 6 番「休日保育事業」ですが、実際に住んでおられる方がどれくらい休日利用されているのか、延べ利用者数は書いてあるのですが、繁忙期はいつなのか、同じ方が複数回利用しているのか、利用者の仕事内容（サービス産業・流通業界など）が見えたほうが良いのかなと思います。

31 ページの 1 番の「被害児童のカウンセリング」ですが、相談件数が大変多いので、どういう問題の件数が多かったのでしょうか。分布状況がわかってくると、福生でどのようなことが相談として求められているのかが見えてくると思います。見えることによって、どういうことに対応しなければならないのかが分かるのかなと思います。

その他ございますか。

【半谷係長】先ほどの回答をしてよろしいでしょうか。29 ページの 3 番「通学路点検の実施」についてです。

点検方法は学校の方から危険箇所を上げていただいて内容を教育委員会の方で取りまとめて、実際にその場所を歩きながら実施して危険箇所を把握するそうです。把握した内容に合わせて、対応できる場所はどこかで分けます。分けたものを警察・道路下水道課・安心安全まちづくり課等の担当で対応してもらい、結果を教育委員会で取りまとめ、学校へ返すということを行っています。何%くらいは教育委員会の方では把握していないそうです。全部対応できるわけではないため、できるところから改善をしているとのことでした。

【委員】学校から報告があつて、教育委員会の方が実際に見に行った箇所が延 61 箇所ということでしょうか。

危険箇所の把握に努めますと記載してあるので、危険なところがどれくらいあつて、どれくらいに対応できているのでしょうか。

【中島課長】通学路もたくさんありますので、その中でチェックをしなければいけないところがピックアップしてあります。それが、61 箇所です。

【委員】危険な箇所の数字が欲しいわけではなく、子どもが入らないように危険箇所にステッカーを貼る、ホームページでアナウンス等見える活動があるのかを確認したかったのですが、要望として上げさせていただきます。

【半谷係長】教育委員会の方に申し伝えます。

【委員】よろしくをお願いします。

【中島課長】先ほど保留とさせていただきました 9 ページの 17 番「児童発達支援事業」ですが、まず「児童」の対象としましては未就学児とのこと。金額が増えた理由でございますが、実利用人数が増えたとのこと。また、1 人あたりが利用した日数も増えております。平成 28 年度の利用日数が 483 日であったところ、平成 29 年度では 1,036 日に増えております。担当からのコメントですが、平成 25 年にこの制度ができて、段々と事業に対応する事務所が増えてきたことで利用しやすくなったことが、利用日数が増えたことの要因ではないかとのこと。

【佐々会長】お金はこれだけ出ているわけですが、それに対しては問題なく出来ているのでしょうか。当初の予算から比べたら相当ですね。

【中島課長】補正予算・流用ですとか、市の予算を変える必要はあるかと思えます。

【佐々会長】こういうお金の問題は予算の何倍かになっても A 評価になるということは、それだけ求めに応じてその時々求められる内容であるから、どこかで出すべきで、それが出来たから A 評価ということではよろしいですか。

【中島課長】中々判断は難しいところではございますが、此処で A 評価となっているのは対象の事業に対して

適切な事業が行えたということでAになっていると思います。数字を見ますと見込みが少ないものではございますが、事務所の数が増えているという外的な要因があるのですが、本来であれば予算と近いところが望ましいところではあります。

【佐々会長】来年度からはこれに関しては実績としてはこれだけありますというのがベースにあるので、そこでの目標や評価になってくるということですか。

【中島課長】見込みも可能な限り実態に近いかたちで見込んでいくことになるかと思います。

【佐々会長】その他はよろしいでしょうか。21 ページの子育て支援関係に関するところですが、16 番から 20 番ですが、実施状況の記載について「〇〇園で実施」との書き方で詳細に書かれていません。それぞれ中々難しいのかもしれませんが、就学前の内容充実がわかる場所ですので、もう少し丁寧に書いていただくと良いかと思います。プレ幼稚園事業に関しましても、認定こども園が2歳からで幼稚園が3歳からですが、プレ幼稚園があるか、その後のあずかり保育があるかどうかで、幼稚園と保育園で迷われる方もいると思います。4月からですが3歳～5歳児まで幼児教育機関になりました。幼児の教育をどうするかについては保育所も求められてきますし、長い時間の中で幼児教育をどうしていくかを問われてきています。先行しているほうの幼稚園が実績を出すのかはわかりませんが、保育園も今までやってきたものに加えてより見えるかたちで幼児教育の内容を伝えていく。0歳～3歳児と幼児とで指針の中身も違ってきましたので、そういうものを踏まえながらみていったときに、保護者側の選択の幅、仕事の都合、内容を検討しながら、そこが良いと託すること、福生はわりと良い動きをしていることが伝わってくると、見学をして内容を理解される保護者も増えてくるかと思うので、幼稚園側も情報を出していただくと良いかなと思います。

他ありますでしょうか。

【佐々会長】地域包括支援センターの方はいかがでしょうか。平成30年度からなので、ここには出てきませんよね。今7月ですから、3、4か月でどのような感じかということをお話いただけますか。

【中島課長】今資料を準備させていただいておりますので、お待ちください。

先ほど保留にさせていただいた質問について回答させていただきます。昨年度A評価で今年度B評価になってしまった事業についてご説明いたします。まずは8ページの7番「生活介護・地域活動支援センター「れんげ園」の運営」について、生活介護利用者数の減と地域活動支援センター利用者数の減から昨年度A評価だったものをB評価にしています。

9ページ12番「重度身体障害者（児）住宅設備改善費給付事業」ですが、昨年度は2件、給付金額2664,000円であったことから今年度はB評価となっております。

10ページ22番「中等度難聴児発達支援事業」、昨年度は1台でA評価であったところ今年度は利用がなかったことからB評価としています。

18ページ10番「薬物乱用防止啓発運動」ですが、昨年度A評価でしたが今年度は準備をしておりましたが雨天で中止となったためB評価としております。31ページ7番も同様です。

昨年度A評価で今年度B評価となったのは、この5つの事業でございます。

【佐々会長】全体として昨年度より上がってA評価が全体の91.4%で170事業、少し下がったものもありますが16事業がB評価、C以下はないということで概ね良い方向に推移したということになっているかと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

7 福生市の現状について

【佐々会長】続きまして、議題（3）福生市の現状について、（4）アンケート調査について、株式会社 めい 名

豊 糸魚川営業技術部長より一括して説明をお願いします。説明終了後、引き続き事務局から補足をお願いいたします。

【糸魚川営業技術部長】株式会社名豊の糸魚川と申します。着座にて説明をさせていただきます。資料5の方では福生市の保育と教育における現状についてということで、これから計画の見直しをするにあたり、再度統計データ等の福生市の現状をご確認いただきながら、計画の見直しのスタートというかたちにさせていただきますと思います。

まず1ページ目をご覧くださいませでしょうか。上表の人口につきまして、直近5か年平成26年から平成30年までみますと、総人口では58,821人から58,384人ということで-0.7%減ということでございますが、0～14歳でみますと6,654人から6,196人で-6.9%減というかたちになっております。ですので、人口の減少に対して子どもの減少率が高くなっていることが、このデータから分かるかと思えます。さらに、下表で年齢別就学前児童数（0～5歳）になりますが、これを見ますと児童数は減少しておりますが、特に0歳を見ると平成26年429人に対し平成30年355人ということで-17.2%減となりますので、出生数自体が減少しているのが分かるかと思えます。こういったところから、今後計画を平成32年から5か年の計画ということで、子どもの人口をどう見込むのかというところから今の推移の部分が影響してくるのかと思えます。

参考に2ページ目では東京都と国の人口推移の表を入れております。近年東京一極集中という言葉もあるとおり、東京都の人口につきましては右肩上がりというようなかたちで推移しております。

そして3ページ目でございます、先ほど出生の関係の数値もありましたが、一般的に子どもの出生数というのは出生率と合計特殊出生率という2つの指標がございます。出生率につきましては人口を分母とするわけですが、年齢構造等も市町村によって違いがありますので、一般的に良く使われるのが合計特殊出生率ということで女性が一生に産む子どもの数ということで、他の自治体との比較が良く行われるわけでございます。福生市におかれましては平成28年で1.34ということで、東京都平均、東京都市部平均に比べ高くなってはおりますが、国と比べると低くなっている状況でございます。下表のところでも東京都市部における合計特殊出生率というかたちで、順位的には10番目に高くなっているということでございます。そして、4ページ目をご覧ください。上表では福生市における社会動態、転入と転出がどのようになっているのか、下表につきましてはそれを年齢別に見たときどのようなになっているのかでございます。データの出典が事務報告書という市のデータと、下表は国勢調査ということで出典元が違いますので、総数のところに相違がございます。転出が高くなっているところは年齢別で見ると30歳代が非常に高くなってはおりますのが分かるかと思えます。いわゆる、子どもを生んでこれから住まうというところで、居住場所を変えているというところがこのデータから分かるかと思えます。

資料の7ページ目をご覧ください。就業のまとめというところで、女性の労働力率がグラフで示されております。女性の年代別の労働力率が示されております。一般的にM字カーブといわれますのが、30歳代40歳代前半で労働力率が一旦下がるかたちになります。この部分が仕事から離れて在宅で子育てをしているという部分で労働力率が下がるということですが、こちらの国勢調査のデータを見ますと、直近で平成27年、5年前で平成22年を比べると、30歳代から44歳までの3点につきましては上に上がってきているというかたちになります。このM字カーブのMの上の部分が少し上がりながら平らの台形になってきてはおります。この要因をみると、詳細に分析をしていかないとはいけませんが、例えば働きながら子育てがしやすくなっているということも考えられますし、晩婚化・

晩産化といったところからも M 字カーブが上がる要素はあると思われます。いずれにしても M 字カーブのところは、少しでも労働力率を上げていく、子育てがしやすい環境づくりというのは非常に必要などころかと思えます。そういったところでは、データでは改善されているところかと思えます。

続きまして、9 ページ目をご覧ください。福生市の保育所・幼稚園における現状というところで上表については、福生市における就学前児童数と保育所在籍児童数ということで、左の方が就学前児童数、右の方が保育所在籍児童数の棒グラフとなっております。折れ線グラフですが、在籍割合ということになりますので分母が就学前児童数、分子が保育所在籍児童数となっております。そういった中で平成 24 年は 0～5 歳のうち保育園に通っている方が 46.2%、直近のデータで平成 28 年になりますと 54.9%ということで、5 割以上の方が保育所に通われているということになります。この現状としては、3～5 歳の方につきましては就園率がほぼ 100%に近いかたちになっておりますので、幼稚園から保育園に流れているという可能性と、0～2 歳までの在宅で子育てしていた方が園の方に通われ始めているというようなところが、データにも影響しているのではないかと思えます。実際に下表で見てみると、年齢別保育所割合ということで出ておりますが、内訳で 0 歳なのか、1 歳なのか、2 歳なのか、3 歳なのか、4・5 歳なのかという割合になっております。0～2 歳について平成 24 年度でいくと、8.2、13.1、19.3 を足しますと 40.6%です。それに対しまして平成 28 年では 9.7、15.8、18.3 ということで 43.8%になりますので、やはり 0～2 歳までの子ども割合は平成 24 年に比べ平成 28 年になりますと非常に高くなっていることが分かります。

そして 10 ページ目でございますが、平成 28 年までは待機児童が出ていたわけですが、平成 28 年度以降待機児童がゼロというようなかたちでデータが出ております。

11 ページ以降でございますが、まだこれからデータの方を作りこんでいきますので、幼稚園や学童クラブ等々のデータを積み上げていきたいと思えますので、今後の会議の中でご報告をさせていただきたいと思えます。

8 アンケート調査について

そして、引き続き次第の次の議題でございます「4 アンケート調査」について、資料 6 (2) からご説明をさせていただきたいと思えます。

まず今回、子ども子育て施策に関わる福生市のアンケート調査を実施するというところで、5 年前の平成 25 年の段階でアンケート調査を実施しております。こちらは来年度の計画の見直しのための基礎調査となるデータでございます。非常に重要なアンケート調査でございます。2 番の調査の内容の対象と趣旨の方にも記載してございますが、就学前児童の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者、事業所等関係機関・団体を対象にしております。趣旨の方にも記載してございますが、子ども・子育て支援法に基づく計画作りでございます。子ども・子育て支援法につきましては基本指針が国の方から示されますので、基本指針に示される利用希望把握調査というものがああります。こちらが就学前児童の保護者と小学生の保護者が対象となっております。そのため、こちらにつきましては基本指針のもと、調査を実施いたします。調査対象数は両方とも 1,200 件で抽出調査の実施を想定しております。そして、③の中学生の保護者についてですが、こちらは 5 年単位では調査は行っておりません。こちらを実施する趣旨でございますが、全国的にも貧困対策、生きづらさを感じている世帯・親子というのがおみえになるわけでございます。この方々の現状や、子育てに関するニーズを今回のアンケートと一体になりながら調査を実施するという方法で行いたいと思っております。その中で貧困対策を考えていく上では、小学生の保護者と就学前児童の保護者だけでは偏りがあるのではないかということで、中学生の保護者に追加でアンケートを実施したいと考えております。そして、事業所等関係機関・

団体につきましては①～③までが子育てを今現在している方々で、そういった親御さんの視点だけではなく、担い手側の視点も今回のアンケート調査の中で基礎調査として意見を取っていきたいと考えております。下の実施スケジュールの2つ目に国から基本指針の提示と記載しておりますが、本日7月27日現在まだ国から指針が出ておりません。そのため、アンケートを検討するにはどこの自治体も苦勞しているところがございますが、現状としては5年前の指針と大きく変わらないであろうという情報も出ておりますので、本日後ほど説明いたしますが5年前のアンケート調査を提示させていただいております。

それでは資料6(1)の説明をさせていただきます。タイトルにも記載しておりますが「前回の未就学児保護者のアンケート調査項目の構成について」ということで、5年前に行いましたアンケート調査の構成についてご説明いたします。左方に「子ども・子育て支援事業計画必須記載」ということで、国の方で今回の計画の中に何を盛り込まなければいけないのか、というところが決められております。「教育・保育」は保育所と保育園の年次別のそれぞれの確保量を決めなければいけない。さらには利用者支援に関する事業(時間外保育等)の確保量を決めなければいけません。確保量を決めるにあたっての、市民のニーズを把握していかなければいけないということで、右方には「量の見込みの推計上必要な項目」を記載しています。基本情報としては、親御さんそれぞれの就労状況、居住状況など、平日の定期的な教育・保育利用状況、地域の子育て支援事業の利用状況、土・日・長期休暇中の利用希望、病気の際の対応、不定期の教育・保育利用状況、小学校就学後の放課後の過ごし方、利用者支援に関することということで、国の求めている事業に対して保護者が回答するに当たって、その方々の生活状況が把握できるようなかたちの項目を設定しております。この全体構成に基づいて、次の資料6(3)、6(4)の項目一覧を作成しております。

資料6(3)をご覧ください。こちらが「子ども・子育て支援に関するアンケート調査 調査項目一覧(未就学児)」となっておりますが、就学前調査の項目一覧でございます。左の方に設問をそれぞれ記載してあります。真ん中に「国調査」という項目がございます。そして設問趣旨という項目がございます。国調査という部分について、先ほどの国が求めている事業に対しての量の見込みを推計しなければいけない部分でございます。◎、○、△と表現しておりますが、全体を見ていただくと、どの設問にもほとんどこの印が記載されております。そのため、5年前に実施しているアンケート調査というのは、国から求められている項目は基本的に網羅するようなかたちで実施しております。その中でも、国の方で必須として求めているもの、任意として求めているものがありますので、凡例を付けておりますが、5年前につきましては、ほぼ国から求められている項目はアンケート項目として網羅しております。後ろの方にいきますと10ページ11ページあたりに印がついていない項目がございます。この部分が福生市独自項目として調査を実施いたしました。

具体的に項目を見ていただきますと、資料6(5)をお願いします。16ページをご覧ください。大きなタイトルで「あなたの子育てについていかがですか」と記載してございます。それ以降にそれぞれ設問がございますが、問31で「あなたは、自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか、それとも辛いと感じることが多いと思いますか。」ということで聞いております。特に福生市様の計画の基本理念で「子どもの育ちと子育ての喜びが実感できるまち」と掲げられておりますので、こちらの設問は非常に重要になってくるかと思っております。それに対しまして問31-1では「子育てが楽しいと思う理由」、31-2では「子育てが辛いと思う理由」を聞いております。そして問32では「子育てに関して、不安や負担などを感じることはありますか」、問33では「子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じていますか」ということを聞いております。その前の段階で教育・保育のニーズや地域子育て支援事業のニーズを聞くわけでございますが、そちらは今現在のニーズでござい

ます。これに対しまして問 33 は「子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じていますか」ということになりますので、例えば小学生の保護者様に聞いた場合には、未就学児のときのことを思い出して、こういったサービスや支援があれば良いのではないかというようなアイデアをいただけるかもしれません。そういったところで、このような設問が設定されております。そして、最後に問 34 では「福生市は子育てしやすいまちだと思いますか」ということで、それぞれの回答・理由を聞いております。それぞれ未就学児と小学生のアンケートを見ていただくと、非常にボリュームがある設問でございます。回答いただくのに 1 時間近くかかると思われますが、国の方から量を見込むためには必須の項目も出てくるかと思われます。福生市の独自項目に対して追加・削除は自由でございますが、しかし先ほどの独自項目につきましては 5 年前の結果が出ておりますので、今回データを取ることによってどのような変化が出ているのか見ることが出来ると思います。そういった中でも市の独自項目についてご意見をいただきながら、調査項目の方を設定していきたいと思っております。以上で説明を終わります。

【佐々会長】ありがとうございました。事務局から補足がございましたらどうぞ。

【半谷係長】アンケートについて補足させていただきます。資料 6（5）、（6）をお願いします。先ほどの説明にもありましたが、国からの指針の公表が予定より遅れているため、スケジュールの都合上次回の審議会までに委員の皆様をお願いしたい事がございます。先ほど説明のあったアンケートの設問については問 30 までは、前回調査で国から提示された必須の項目で、今回もほぼ同様のものになると予想しております。ただし資料 6（5）の問 31 以降、資料 6（6）の問 20 以降につきましては福生市独自の調査となっておりますので、独自の質問として新たに追加、または変更してはといった委員の皆様のご意見がありましたら、8 月 10 日（金）までに子ども育成係までメール又は F A X でいただきたいと考えております。F A X にてお送りいただく際は、連絡票を机上に用意いたしましたので、こちらをご利用ください。ご協力のほどよろしく申し上げます。以上です。

【佐々会長】ありがとうございます。前回のときに、国から定められているものもありますが、福生の独自のものを入れた方が良いのではないかとということで、福生の子育てに対する考え方をもう一度読み込みながらアンケート調査の内容を検討した経緯があります。そういう意味では、少し年数も経ってきまして、次の 5 年を作るのにあたっては時代も変わってきたこともなくはないので、お感じいただいたことを、こういう項目は入れられないか、こういうのはどうだろうかというのを言っていたら良いのかもしれない。前もってそういう資料があった方が検討材料になるということですね。この場の中でまた詰めていくという感じになるかと思っておりますので。しっかりと業者さんの方からもご説明いただきましたし、これから資料として入っていないものも作っていただけるとのことで、策定する前にどういうことを調査として行うのが良く理解出来たかと思っております。

何か質問はございますか。

独自のことに關しては特にですが、ご意見は 8 月 10 日（金）までということですので、あと 2 週間くらいの間に出していただければと思います。今日欠席の方が多いため、その方々について周知を徹底していただくようお願いいたします。入れ替わりになった方もいると思うので、そういう方々にも情報を出していただいて、返事がない場合には会議に出席いただいて、一緒に検討していくという感じでやらせていただければと思います。よろしく申し上げます。

他にございますか。

9 平成 30 年度・31 年度のスケジュール（案）

【佐々会長】続きまして、議題（5）平成 30 年度・31 年度のスケジュール（案）について、事務局より説明

をお願いします。

【半谷係長】資料7をお願いします。平成30年度、31年度の計画策定までのスケジュールです。

子ども・子育て審議会で諮る内容につきましては、審議会で検討をしていただく前に、庁内検討委員会で検討し、その後、審議会に諮っていきたいと考えています。また、審議会で質問された事項については、持ち帰り庁内検討委員会で検討し、その回答を審議会に報告いたします。市民の方へのアンケート調査の郵送を10月上旬には行いたいと考えておりますので、今回は庁内検討委員会と、審議会の開催を9月下旬から10月初旬に行いたいと考えています。主にアンケート調査等の内容の検討を考えています。

アンケート調査を実施した結果は2月の下旬に庁内検討委員会、審議会を経て、アンケート調査報告書を完成させます。その後、調査による分析を含め、保育園、幼稚園や子育て施策に対しての、本格的な議論が始まりますので、平成31年度の4月からは、ほぼ毎月審議会の開催を考えています。事業量の見込みと施設の設置状況など、5年間の計画をまとめていきます。そして、11月に計画案を作成します。計画案については1月にパブリックコメントや議会の意見を募集します。審議会で再度検討し、計画を決定します。市長に答申後、議会に報告をして、東京都に提出をしていきます。32年度以降については、市が計画をどのように進めているか、進捗状況を平成33年に報告をしていきます。以上がスケジュールとなっています。

【佐々会長】ありがとうございました。説明が終わりました。何かご意見・ご質問がございましたらご発言をお願いいたします。

一期のものが進んでいる間に次のことをするということですね。今回の平成29年度の評価のところで、A評価が91.4%ということもあり、課題も見え隠れしておりますので、そういうものを見ていただきながらということですね。そのところは、あと2年間はあるわけですが、新たな事業も平成29年度もありましたが平成30年度もありましたし、社会情勢からも見るとどういうふうになった方が良いかということになるかと思えます。スケジュールがタイトになるので、今のことを踏まえながら先のことも見ていって、より良いものにしていくためのアンケート調査ということになるかと思えます。ご説明いただいた手順・スケジュールになり、お時間を取りながら会議と市庁舎の会議と同時進行で行ったり来たりしながら積み上げていくことになるかと思えますので、よろしく願いいたします。

議題（6）「その他」

【佐々会長】議題（6）「その他」何かございますか。

【瀬谷課長】健康課の瀬谷と申します。3月に子育て世代包括支援センターの立ち上げをしますということで簡単にご説明をさせていただきました。平成30年4月から開始しまして3か月ほど経ちましたので、その状況を説明させていただきたいと思えます。まず子育て世代包括支援センターですが、保健センターの2階に事務所を設けまして、現在6名で対応しております。6名の職種ですが、保健師が3名、臨床発達心理士が3名ということで対応しています。8月からは保健師が1人増えまして、保健師4名、臨床発達心理士3名の計7名で継続してやっていきたいと思えます。前回お話をさせていただいた中で、妊娠届出の際に保健師による面接をするというところで、面接をする中で継続的な支援が必要な方に関しては、個別の支援プランを作りまして、妊娠期からフォローしていくという体制をしっかりと固めていくということをしております。実際のところ、妊娠届出の際の面接の中での印象としまして、未入籍の方、16、17歳の方、外国人の方が増えているという感じを持っております。それから、気になる方は予想外の妊娠で戸惑っている方が結構いらっしゃるのを感じております。それか

ら飛び込み出産ということも何件かありまして、全く妊娠届出をしないまま病院にいて出産する、あるいは自宅分娩というケースもいくつか出てきておりますので、妊娠中からの支援も大事ですが、そういった方への支援も大事だと考えており、実感しているところです。妊娠届から出たケアが必要な方については、支援プランを作りまして、個別の支援プランに沿って子育て世代包括支援センターの職員だけではなく、健康課の保健指導係の保健師、子ども家庭支援課の職員、障害福祉の職員等関係機関の職員と一緒にフォローしていくかたちをとっております。実戦部隊となるのは、保健指導係、子ども家庭支援課の職員になりまして、支援プランの進捗状況や見直しをしていくところが子育て世代包括支援センターの大事な役割だと思っております。支援プランがうまくいっているかどうかの確認というところで、保健指導係の保健師と動くことが多いため、週に1回保健指導係と支援プランの進捗状況の確認・新たにフォローとなった方の紹介やフォローの進め方等のミーティングを行っております。必要に応じて子ども家庭支援課の職員ともミーティングを行っております。子育て世代包括支援センターについて、他の自治体と違うところは、臨床発達心理士が3人ということと、保育園の巡回相談を0歳児から行っているところです。平成29年度までは教育相談の方で、臨床心理士が主に就学に向けて年長さんを中心に巡回相談を行っていましたが、平成30年度につきましては、年長さんからの支援では遅い、もうすこし早めに見て欲しいとの保育園・幼稚園の要望により、見て欲しいというお子さんがいれば0歳から対応しています。市内の保育園が16園ありますが、5月から巡回相談を始めています。各園年3回を考えておりまして、5月～7月、9月～11月、1月～2月の3回に分けて行います。今は第一回目というところです。具体的な数字は出しておりませんが、5歳児のお子さんの巡回相談の要望もあります。2、3歳児の様子を見て欲しいとの要望もありまして、実際に回っているところです。やはり集団に馴染めない、コミュニケーションがうまく取れない等のお子さんがけっこういらっしゃる状況が見えてきております。巡回相談をしていく中で「こういったところを見てください」など、保育士へのアドバイスもありますが、そこで挙がってきたお子さんに対しては保護者の同意を基に子育て世代包括支援センターに来ていただいて、心理士による面接を行っております。今のところ週2回～3回、面接の時間を設けて、検査キットなどを準備しており、検査を始めているような状況です。その中で必要であれば、病院につなげていくというようなかたちになっております。思ったより支援が必要な方がたくさんいるような印象がありますので、このところを大事に対応していかなければいけないと思っております。私の方からは以上です。

【佐々会長】ありがとうございました。ご苦労様でございます。

実際に今年度から動き始めた内容です。妊娠期からの問題や、子どもたちのことも含めてですね。前には見えなかったことが見えてきたということで、丁寧にやっておられるというのがあるのかなと思います。よろしく願いいたします。

その他、ご質問や何かございますか。

【半谷係長】次回の審議会の開催につきまして報告いたします。次回につきましては、平成30年9月下旬から10月上旬に開催を予定しております。開催日等決定いたしましたら、改めてご連絡いたします。

【佐々会長】なるべく参加をお願いします。今日は欠席が多くて大丈夫なのかなと思いましたが、人数が何%いないと駄目だとかあると思いますので、ぎりぎりだったようなので、なんとか良い日程・時間帯で出来ればと思います。アンケートのこととか、色々出てくるかと思っております。候補の日程の中でも皆様色々あるかと思っておりますが、ご参加いただければと思います。

他に無いようでしたら、これで本日の会議はすべて終了いたしました。以上をもちまして、平成30年度第1回子ども・子育て審議会を閉会いたします。ありがとうございました。